

中部人懇通信 No.4

学級担任
対象

令和元年10月7日（月）に、東伯文化センターにおいて学級担任及び希望者を対象とした中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を報告します。

現地研修 講師 東伯文化センター 館長 河井 園子 さん
隣保館指導員 東原 恵美 さん 生活相談員 谷田 順子 さん

現地研修では、地区の歴史や同和对策事業について、また、地区の現状について、お話をいただきました。

「村づくりは人づくり」を合言葉に、学習会の前身である朝学と夜学を始めた田中勇先生の取組や、子ども達に教育を受けさせたい



思いや地域の文化を取り戻したい願いを受けて学習会や解放文化祭が始まったことを聞き、地域の方と教師の熱い思いが一つ一つの取組の原動力となったことを感じることができました。



また、「安心して暮らせる地域社会」をめざして、何度も話し合いを重ね、道路の拡張や大型共同作業場設置に至った同和对策事業の成果についても話を聞きました。実際に現地を歩いたことで、改良された道路が町内外の様々な人の生活に役立っていることを実感することができました。

グループ協議 「現地研修で学んだことをどのように生かすのか」

園・小・中・高の教員と市町の人権教育推進委員の混合グループで現地研修の感想を交流し、研修の学びを今後の取組に生かすための協議を行いました。

人権教育について現在の取組や課題を共有し、課題解決に向けて意見交換をすることができました。児童生徒の学びを深めるために、心に残る学習内容を積み上げていくことの大切さや、地域、保護者に情報発信していく必要があること等、今後の人権教育の充実に向けて、熱心に協議が行われました。



【参加者の感想より】

- 実際に現地を歩いてみることで、当時の人々の生活や息づかいを感じる事ができた。ランドナップや制服に込められた願いも初めて知ることができた。
- 昔と今の対比だけでなく、当時の暮らし、変わってきた事情や経緯をわかりやすく聞きながら歩いた。改良された道路が誰にとっても有用な生活道路となっていることなどもっともっと認識を深めたい。
- 人の強く熱い思いが人を変え、歴史を変えたことを見ることができ、同和教育の強さを感じる事ができた。地域、子ども達としっかりつながって、生の声を伝えないといけないと思った。
- 協議を通して、具体的な人権問題を取り扱うだけでなく、日頃から人権意識を育むことを大切に、正しい判断ができるような子どもの育成について、連携して取り組むことが大切であると感じた。
- 自分自身が人権課題について知る事が第一だと思った。また、子ども達の心に残り、実践力につながる授業づくりをしていきたい。



現地研修では、道幅が拡大されたことや大型共同作業場ができたという事実を「見る」「知る」だけでなく、厳しい差別の中で、どのように立ち上がり完成に至ったのか、背景を正しく理解することができました。みんなの幸せのために、懸命に生き、差別をなくすために努力を続けてこられた姿と熱い思いを感じる事ができました。本研修会で学んだことを各職場で広めていただき、今後の実践に生かしていただきたいと思います。